

令和 3 年 8 月 23 日 10 時 10 分受理  
 受付順位 13  
 発言順位 4

発 言 通 告 書

藤枝市議会議員 植田 裕明 様  
 藤枝市議会議員 11 番 遠藤 久仁雄  
 次のとおり通知します。

発言の種類	代表質問 一般質問 緊急質問
1. 標 題	小中学校英語教育の発展を願って 答弁を求める者 (市長、教育長、担当部長)

(要旨・内容)

藤枝市の教育は、先進的な取り組みが数多く見られ、着実にその成果を上げていっていると思われる。最近では、特別支援教育支援員等を全校に手厚く配置したり、また学校図書館司書も全校に配置されるなど、まさに県内の他市をリードする画期的な取り組みが推進されている。今回は、その中から小中学校の英語教育について考えてみたい。

本市は、近年ALT (外国語指導助手) の採用に積極的であるが、これまでこの長年にわたる取り組みの努力により、現在の体制が構築されたものと考えられる。平成 25 年 (2013 年) 度には、わずか 6 人しかいなかった本市の ALT だが、翌年の平成 26 年 (2014 年) 度は一気に 13 人に増員されることとなった。さらに平成 30 年 (2018 年) 度には、17 人への ALT の増員となり、本年度は何と 19 人を配置する計画である。

この間に令和 2 年 (2020 年) 度には新学習指導要領が完全実施され、小中学校 5・6 年生の英語活動が教科に変わり、併せて 3・4 年生に英語活動が導入されたが、本市はこれに先立ち、移行期間として前倒しで導入を行った。このような教育課程の変遷の中、本市の英語教育について質問する。

- (1) 英語学習のスタートから、小学校で ALT の生の発音に触れることができ、さらにコミュニケーション中心の楽しい学びが展開されるなど、本市の子どもたちは恵まれた学習環境である。5・6 年生の英語教科化に伴い、成績評価を行うことについて懸念されたが、現状は如何か。
- (2) コロナ禍の影響で、JET プログラムによる海外からの新たな ALT 招聘は困難になっている。本年度必要とされる ALT の確保状況を伺う。
- (3) 小学校での楽しい英語学習が、中学校でも継続されることを願う。現在のコロナ禍の状況では致し方ないと考えるが、中学校の 1～3 年までの全学級に、最低でも週 1 時間 ALT の授業参加を望みたいが如何か。
- (4) 中学校英語科教員のスキルアップについて考えたい。教員に自主的な研修 (海外研修等) の機会を保障することについての考えを伺う。

(※ 内容は詳細に記入してください。)